

## 縄文土器タンブラーリリースに寄せて

このたび株式会社ウイルでは、縄文土器タンブラーの販売をさせて頂くことになりましたので、その経緯をご説明させていただきます。

私は「東京都大森貝塚保存会」の会員として、日本の考古学発祥の地・大森貝塚の歴史的遺産の保護と継承に日頃から関わっております。

その関係で考古学関係の方々との交流が徐々に増えて参りました。その中のおひとりに宮城県在住の元東北歴史博物館上席主任研究員・菊地逸夫さんがいらっしゃいました。

考古学の確かな知見に基づき、数々の縄文土器を作成されてきた方です。菊地さんの造形力に魅せられ、今まで何点かの土器を購入させて頂きました。

2021年2月13日、福島県沖を震源地としてマグニチュード7.3の地震が発生し、宮城県と福島県で最大震度6強を観測しました。東日本大震災の余震であるとの報道にも衝撃を覚えました。

ちょうど息子が同年4月に福島県への異動が決まった矢先のこと、私にとっては対岸の火事とは思えませんでした。

菊地さんへも、すぐに安否の確認をさせて頂きました。

そのときに返ってきた言葉が忘れられません。

「『形のあるものは必ず壊れる』とは言いますが、かなりショックです。東日本大震災以来、やっと元通りになったと思っていた矢先でした。怪我がなかった事をよしとしましょう。」

いつも縄文土器を作られていたアトリエの作品は壊滅的な状況でした。その写真を拝見したときには、涙がこぼれてしまいました。

その時、私に出来ることは何かないか、と考えました。

辿り着いた結論が、菊地さんにもう一度、土器を作る機会をご提供させて頂こうということでした。

2020年7月に、大田区でクラフトビールの醸造とレストラン（蒲田「羽田バル」、天空橋「羽田スカイブルーイング」）を経営する株式会社大鵬と弊社では、「大森貝塚ビール」（現在は「大森貝塚エール」）を共同開発し販売に至りました。

大森貝塚にちなんだクラフトビールを、ぜひ菊地さんのつくった縄文土器タンブラーで飲んで頂きたい。そう思って大鵬の大屋幸子社長にご相談しました。

緊急事態宣言下で飲食店ではお酒が提供できず、大変厳しい状況が続いておりました。

ところが2つ返事で「やりましょう」というお返事を頂きました。

そこで3か月の試作期間を経て、2021年9月1日に両店舗に縄文土器タンブラーを納品させて頂きました。

現在はまだ緊急事態宣言が延長された関係で、お酒は提供できませんが両店舗にタンブラーは展示されています。

9月16日はモース博士が大森貝塚を発見・発掘した記念日で、144周年を迎えます。

この記念日直前に、縄文土器タンブラーをリリース出来たことは、私にとっても大きな喜びであります。

現在はお皿や身近なところで飾って頂く小物類の試作も始まりました。

今後はイベント会場やギャラリーでの展示即売のお話も頂いております。

弊社では「NO JOMON, NO LIFE. 暮らしの中に縄文土器を」をキーコンセプトに、博物館へ



行かなければ楽しめなかった縄文土器を、日々の生活の中で楽しんで頂けるものとして、今後もご提供させて頂きたいと思っております。

1 万年以上の持続可能な社会を築いてきた縄文時代。世界史上類がなく、SDGs（国連が制定した持続可能な開発目標）の原点というべき社会を実現させてきたと言えます。

その「縄文マインド」を生活の中で見て、触って、使って、感じて頂けましたら幸いです。

2021年9月3日 蒲田・羽田パルにて。

2021年9月10日

東京都大森貝塚保存会 会員

株式会社ウイル 代表取締役 奥山 睦